平成 19 年 2 月 14 日

各　位

会 社 名　　澁 谷 工 業 株 式 会 社
代表者名　　取締役社長　澁 谷 弘 利
（コード番号6340　東証、名証市場第１部）
問合せ先　　常務取締役　吉 道 義 明
（TEL　076－262－1201）

平成19年６月期(中間期)業績予想との差異および(通期)業績予想の修正のお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成18年8月22日の決算発表時に公表した平成19年6月期中間（平成18年7月1日～平成18年12月31日）および平成19年6月期（平成18年7月1日～平成19年6月30日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．平成19年6月期中間業績予想数値との差異（平成18年7月1日～平成18年12月31日）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前　回　発　表　予　想（A）	20,500	550	650	360
今　回　修　正　予　想（B）	18,274	521	611	261
増　　減　　額（B－A）	△ 2,225	△ 28	△ 38	△ 98
増　　減　　率（%）	△ 10.9	△ 5.2	△ 5.9	△ 27.2
（ご参考） 前期実績(平成18年6月期中間)	17,165	192	504	△ 3

２．平成19年6月期中間連結業績予想数値との差異（平成18年7月1日～平成18年12月31日）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前　回　発　表　予　想（A）	24,500	830	820	430
今　回　修　正　予　想（B）	21,830	953	945	413
増　　減　　額（B－A）	△ 2,669	123	125	△ 16
増　　減　　率（%）	△ 10.9	14.9	15.3	△ 3.9
（ご参考） 前期実績(平成18年6月期中間)	21,400	474	718	130

３．平成19年6月期通期業績予想数値の修正（平成18年7月1日～平成19年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A）	44,000	2,080	2,400	1,400
今　回　修　正　予　想（B）	42,500	1,520	1,900	980
増　　減　　額（B－A）	△ 1,500	△　560	△　500	△　420
増　　減　　率（％）	△　3.4	△ 26.9	△ 20.8	△ 30.0
（ご参考） 前期実績(平成18年6月期)	36,914	1,252	1,787	828

（参考）１株当たり予想当期純利益（通期）37円15銭

４．平成19年6月期連結通期業績予想数値の修正（平成18年7月1日～平成19年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A）	52,000	2,800	2,850	1,570
今　回　修　正　予　想（B）	50,500	2,500	2,650	1,340
増　　減　　額（B－A）	△ 1,500	△　300	△　200	△　230
増　　減　　率（％）	△　2.9	△ 10.7	△　7.0	△ 14.6
（ご参考） 前期実績(平成18年6月期)	46,251	1,983	2,364	1,120

（参考）１株当たり予想当期純利益（通期）50円80銭

５．修正の理由

＜中間期＞

単体売上高は、パッケージングプラント事業において、期初計画時点で上期納入と見込んでいた大型プラントが客先工場の搬入体制が整わないことなどにより下期へずれ込んだものが数件あったことから、売上高は18,274百万円と期初予想に比べ10.9%減少しましたが、中間期としては過去最高の売上高となりました。

利益面では、コスト削減に努めたものの、売上高の未達により営業利益は521百万円、経常利益は611百万円となり期初予想に比べそれぞれ 5.2%、5.9%の減少となりました。また中間純利益は、特別利益に子会社に対する債務保証損失引当金戻入47百万円と特別損失として子会社に対する株式評価損100百万円を計上した結果、261百万円と27.2%の減少となりました。

連結の業績につきましては、売上高では単体と同様の理由により21,830百万円と期初予想に比べ10.9%減少しました。

利益面では、連結子会社の業績が向上したことから、営業利益は953百万円、経常利益は945百万円と期初予想に比べそれぞれ14.9%、15.3%の増加となりました。一方、中間純利益は、子会社の業績が伸びたものの単体の業績の未達を補いきれず413百万円と期初予想に比べ3.9%の減少となりました。

＜通　期＞

単体売上高は、パッケージングプラント事業において、期初に見込んだ輸出案件の一部が成約に至らなかったことから42,500百万円と、期初予想に比べ3.4%減少するものと見込んでおります。

利益面では、一段のコスト削減に努力していますが、パッケージングプラント事業において、輸出案件で欧州メーカーとの価格競合を強いられ、また国内においても特に飲料を主体とした客先業界で商品の価格競争が激化し、客先の設備投資も国内外のメーカーとの価格競合で受注価格が抑えられることから採算が低下し、営業利益は1,520百万円、経常利益は1,900百万円、当期純利益は980百万円となり、期初予想に比べそれぞれ26.9%、20.8%、30.0%の減少を見込んでおります。

連結の業績では、売上高が単体と同様な理由により50,500百万円と期初予想に比べ2.9%の減少を見込んでおります。

利益面では、子会社の業績が寄与するものの単体の落ち込みを補いきれず、営業利益は2,500百万円、経常利益は2,650百万円、当期純利益は1,340百万円と期初予想に比べそれぞれ10.7%、7.0%、14.6%の減少を見込んでおります。

以　上